



「呉市花火大会のあり方に関する提言」の提出について

このことについて、別紙のとおり、「呉市花火大会あり方検討会議」から呉市へ提言が提出されました。

令和8年6月19日

呉市長 新原 芳明 様

呉市花火大会あり方検討会議
座長 田中 貴宏

呉市花火大会のあり方に関する提言

本検討会議は、呉海上花火大会中止の方針を受け、今後の呉市、特に呉湾周辺における花火大会のあり方について、学生から有識者まで幅広い立場の委員が集まり、闊達かつ熱心な議論を重ねてまいりました。

未来の呉を担う次世代の声と、地域社会の持続可能性という視点を融合させ、本検討会議として次のとおり提言いたします。

1 開催の意義

花火大会は、住民にとって馴染み深く、長く思い出として残る行事であり、持続的な地域の活気を生む貴重な機会であると考えます。また、新たな地域の魅力を発信する観光資源となり得る行事でもあります。

今後は、花火を鑑賞するだけの行事にとどまらず、市民が世代を超えて共に創り上げる持続可能な形態へと再構築した、「新生・呉の花火大会（仮称）」を開催するべきであると考えます。

2 具体的な実施計画

令和8年度における準備期間を考慮し、令和8年度と令和9年度以降に分けた実施計画とする。

(1) 令和8年度

持続可能な運営スキームを確立するため、次の内容に沿って、令和9年度以降の本格的な開催に向けた「試行（トライアル）」として実施する。

ア 「新たな実行委員会」の設立

準備期間が短い今年度は、呉市役所が事務局機能を主導しつつ、地域団体・若者・経済界の力を結集した「新たな実行委員会」を組織する。

イ 既存イベントとの連携試行

秋季（10月～11月頃）開催を前提として、既存の市内イベントと連携し、花火大会を実施する。また、警備体制や設営等を共有することで、無理のない効率的な運営を行い、そのノウハウを蓄積する。

ウ 若者の感性とニーズを活かした企画・広報

若い世代の視点からニーズを掘り起こし、企画や広報に組み込む。若者自身が主体となって作り上げた経験や分析データを蓄積し、次年度以降の花火大会をより魅力的に磨き上げるための貴重な財産とする。

(2) 令和9年度以降

令和8年度の結果を踏まえ、持続可能な花火大会として、価値の最大化を図る必要がある。

ア 自立的な運営体制への移行

実行委員会が主体的な運営を担い、呉市役所はその後方支援に回る体制への移行を目指す。

イ 「参加者の満足度を重視した演出」の検討

打ち上げ数という「規模の追求」から脱却し、参加者のニーズを反映した企画や創意工夫ある演出により、参加者が呉の魅力を体感できる満足度の高い花火大会を目指す。

ウ 持続可能な財源確保

有料観覧席の導入や企業協賛のあり方を見直し、自立的な運営基盤を整える。

エ 地域の誇りを育む文化創出

市民、生徒・学生、行政が協働し、花火大会を単なる行事から、街への愛着と郷土愛を深める「地域の文化」へと高める。

3 新たな開催形態の方向性

(1) 開催時期の柔軟な検討

酷暑による安全面への配慮と準備期間確保を最優先としつつ、秋季開催のほか、浴衣を楽しめる気候など、参加者のニーズと運営の持続性を両立できる時期を幅広く検討する。

(2) 相乗効果の創出

既存のイベント等と連携した開催を推進し、街全体が賑わう相乗効果を創出する。

(3) 若者の感性の活用

SNSの活用や企画・演出など、若者の視点と感性を運営の核とし、共に作り上げる体制を定着させる。

(4) 適正規模による運営

安全対策を最優先にしつつ、無理のない規模感を維持することで、長きにわたり市民に愛される花火大会を目指す。

以上